



核兵器 廃絶を願って 次世代への伝承

～親子で平和を考えるとき～

戦後80年の節目に平和について考える企画に、
さまざまな世代が参加しました。



被爆者の方々と一緒に

各地域での平和企画

親子で「これからの未来へ続く平和」を考える企画など、多くの平和募金企画も開催されました。

◆西東京市にもあった戦争・アニメ「原爆の記」上映会◆



全体の様子



アニメ
「原爆の記」の
ワンシーン

戦後70年にまとめた西東京市の戦時中の映像と初代田無市長である指田吾一氏の被爆体験を綴った「原爆の記」のアニメ化記録の上映。詩人アーサー・ビナード氏の紙芝居「ちっちゃいこえ」上演も行いました。

紹介した他にも、たくさんの企画がありました

- ・戦後80年の両国を歩く！ 東京都慰靈堂見学と横網町公園散策
- ・賀川豊彦記念 松沢資料館(世田谷区上北沢)を訪問
～日本の「協同組合の父」賀川豊彦を学ぶ～
- ・平和を考える 浅川地下壕(八王子市)の見学会
- ・戦争体験を未来へ語り継ぐティータイム
- ・戦後80年を東友会の方と一緒に語ろう など



○東都生協 平和募金とは

くらしを守り、次世代の子どもたちに平和な世界を引き継いでいくために組合員に募金を呼び掛け、平和活動に役立てています。東都生協平和のつどいを始め、地域での平和募金企画は組合員の皆さんから寄せられた募金を活用して開催しています。

2025年は平和募金の取り組みを2回行いました。多くの組合員の皆さんよりご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。

「平和なくして、生協なし」— 戦後・原爆投下80年の2025年、多くの平和行事が開催され、東都生協もさまざまな活動に取り組んできました。世界では今も戦火にさらされている人々がいます。一人ひとりができることについて

今年2026年も組合員の皆さんと、次世代の子どもたちと一緒に、共に手を取り考えていきましょう。平和な世界の実現のため、東都生協は平和活動を継続し若い世代に広げていきます。

第21回 東都生協平和のつどい

～世界に届け、平和の祈り～

7月12日に北沢タウンホールにて開催しました。



ステージ

第1部

ピースアクション平和活動に参加した組合員からの報告、「三宅少年のひろしま」の朗読による上映会、東友会の皆さんへの膝掛けの贈呈式が行われました。



旧とーと会「ピース・Peace・同友会」
オリジナル作品

「三宅少年のひろしま」の朗読による上映会
朗読は平田敬子さん



組合員の思いを紡いだ膝掛けの贈呈式
東友会の皆さん

第2部

「核兵器廃絶と平和への道」と題し、東友会代表理事の家島 昌志さんより日本被団協が2024年に受賞したノーベル平和賞受賞式の報告とご自身の被爆体験のお話を伺いました。「核兵器は廃絶するしかない」という言葉からはその強い思いが伝わりました。



東友会代表理事 家島昌志さん

東友会事務局長の村田 未知子さんは、組合員が膝掛けを贈るきっかけのお話を伺え、1988年から始まった東友会と東都生協のつながり・歴史を聞くことができました。「ピース編みでみんなの平和の思いを集めつなぎ合わせて、平和のために一緒に祈ることができる」という言葉が心に残りました。

また、「被爆者と私たちは同じ言語を話して同じ文化を共有して同じ時代を生きている。そういうものの使命として、皆さんは被爆者や被爆を自分事として心に残して伝えてください。できれば被爆者のお友だちを作り被爆のことを伝えていただけるといいなと思っています」と語られました。



東友会事務局長 村田未知子さん

※一般社団法人 東友会 (東京都原爆被害者協議会)

東京在住の被爆者の方が1958年11月16日に結成。1962年4月以来、被爆者の相談事業を東京都知事から委託。60年以上励まし合いながら被爆者と家族のための運動や事業を続けています。

ロビー展示



原爆と人間パネル展示



平和の願いの樹
129枚のメッセージが集まりました



来場者の感想

大学生 のどか
篠田 和さん

パネルディスカッションで紹介いただいた方たちのほとんどがお亡くなりになっていて、戦争体験を語り継ぐ人がいなくなっています。これからは私たちがその役目を担っていくのだと痛感しました。過去の戦争から学ぶもの、そして平和を切に願う。声を上げることの大切さを知りました。